

(シンポジウム「患者の望みをつなげる意思決定支援」)高齢者への意思決定支援のニーズとチームとしての取り組み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河野, 佐代子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033414

高齢者への意思決定支援のニーズとチームとしての取り組み

河野 佐代子

(慶應義塾大学病院 看護部・医療連携推進部)

慶應義塾大学病院では、大動脈弁狭窄症の患者に対して経カテーテル大動脈弁植え込み術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation, TAVI) を多数実施している。TAVI の適応となる患者は、80 ～ 90 代と超高齢であり、認知機能障害を認める患者も多い。2019 年より、当院 TAVI 診療班から意思決定能力評価・支援 (以下、意思決定支援) について高齢者認知障害サポートチーム (以下、DST) に依頼を受けている。

TAVI 目的で当院循環器内科を受診した患者に認知機能の簡易スクリーニング検査を開始した。そして、認知機能障害を認める患者や治療への意思決定に支援が必要な患者に DST の医師・看護師・心理士が意思決定支援を目的とした面接を実施している。この取り組み開始当初は、DST にてほとんどのケースの面接を行っていたが、現在は、TAVI 診療班の医師・看護師によって意思決定支援が実践されており、困難例のみ DST で対応している。これまでの取り組みは、5 つのステップに整理できる。

- ①課題認識期：認知機能障害患者の身体治療への意思決定支援の重要性について主診療科チームが再認識し、DST に依頼する。
- ②主診療科チームへの支援期：DST は、患者・家族の意思決定支援を実践する。
- ③相互補完期：DST と主診療科チームで有用なツールを開発し、連携体制を整える。
- ④拡大期：他の診療科に取り組みを共有し応用する。
- ⑤支援期：現場の医療者が実践できるよう支援・教育する。

認知機能低下を認める患者の治療選択においては、患者家族・医療者双方で迷いが生じるだけでなく、決定後にも是非が問われることもあり、より丁寧な意思決定支援が必要である。今後高齢化が進むにつれ、認知症ケアを担う専門家だけでなく、一般の医療者も高齢者の意思決定支援が実践できるように体制を整える必要がある。今回、本取り組みは、現場の医療者を支援・教育する方向に活動を変化させた結果、現場医療者の意思決定支援の知識技術が向上し、ボトムアップにつながり、他の診療科へも波及した。今後はより多くの医療者が実践できる体制を構築したい。
